

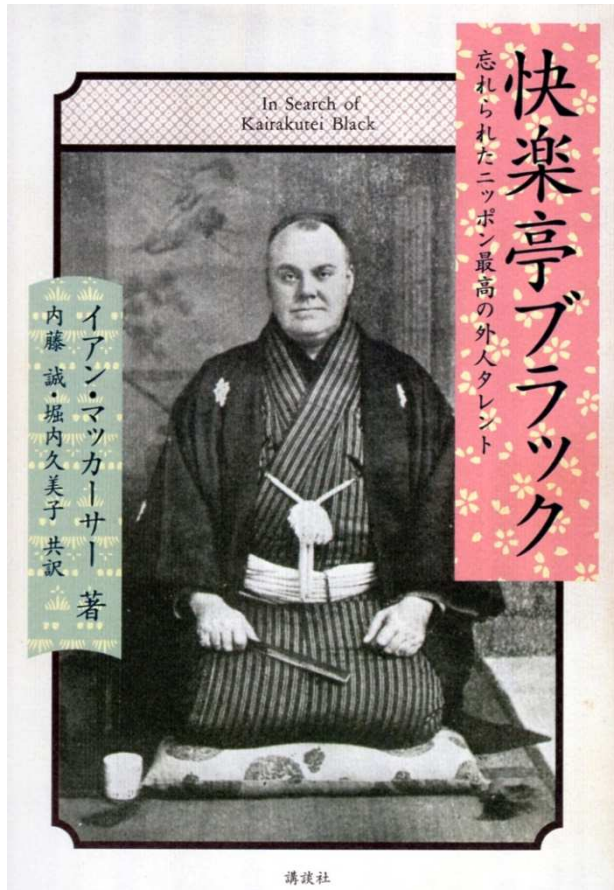
Bluff Archives Monthly News

2019年9月

発行 NPO 法人横浜山手アーカイブス

Henry James Black

ヘンリー・ジェームス・ブラック (快樂亭ブラック)



横浜外国人墓地公開日、維持保存の募金協力者に配布される公開順路案内⑥に、最初の外国出身落語家 First foreign “rakugoka” (Japanese comic story teller) と紹介されている快樂亭ブラックの墓がある。彼は 1858 年オーストラリア生まれ、父のあとを追い、母に連れられ 1865 年に来日した。後に帰化、日本名は石井ブラック。オランダ商人ヘフトの支援を受け横浜初の日刊英字新聞「Japan Gazette」を創刊した、彼の父ジャーナリストのジョン・レディ・ブラックも同じ墓に眠っている。

ヘンリーは 1876 年の父の離日後（後に再来日）も日本に残り、1884（明治 17）年には三遊派に属し、1891（明治 24）年快樂亭ブラックを名乗り、彼独特のべらんめえ調で明治大正初期まで人気を集めた。自身の創作噺や

西洋奇術、講談、手品、推理小説、歌舞伎に端役で飛び入り出演など多芸の芸人でもあった。さらに彼は、日本での平円盤レコードの初録音のプロデューサーとして活躍した。1903 年正月に横浜に到着した英国グラモフォンの日本出張録音主任フレッド・W・ガイスバークと会って、レコード録音に協力した。「快樂亭ブラックの精力的な製作協力によって、日本で最初の平円盤レコードの録音が可能になった功績は長く記憶されるべきである。と同時に、話芸や邦楽の各分野の代表的声と音が、（中略）世界に紹介された功績も忘れてはならない。」（参考文献※P.208 より引用）彼自身もガイスバークの録音に参加し、現在 13 枚のレコードに収められているのが確認されている。しかし、そんな彼も晩年は不遇であったと伝わる。1923 年 9 月 19 日関東大震災直後に亡くなった。

1985 年（昭和 60 年）9 月 19 日の命日より、彼の偉業を後世に伝承するため、快樂亭ブラック研究会発案のもと「快樂忌」ブラック祭が行われていたが、2007 年（平成 19 年）休止、以降ブラックの養子の孫ゆかりの浜松在住の須藤家の意向を受け、山手資料館が事務局として協力し、毎年命日に「快樂忌」を継承している。当日はブラックにちなみ「黒ビール」を供え、「そこにいるのはだれだい・・・」と彼の音声の落語 CD をかけ、墓前に献花している。2018 年 2019 年は墓前祭後、有志、関係者らでブラックを偲び語る茶会を山手 234 番館で催した。

山手資料館 2 階には、1973 年の開館以来、外国人墓地の模型、墓地に眠る人々の紹介パネルを展示している。有志ではあるが「快樂忌」のような日本で活躍した外国人を偲ぶ活動の継承も、地域の資料館の役割である。（O）

<参考文献>

※『快樂亭ブラックの「ニッポン」』 佐々木みよ子、森岡ハインツ著 PHP 研究所 1986 年

『快樂亭ブラック』イアン・マッカーサー著 講談社 1992 年（表紙転載）『外国人墓地に眠る人々』 齊藤多喜夫著 有隣堂 2012 年